

「楽しそう」でつながりの輪をひろげる「GOZARE」プロジェクト

【活動概要・他でもありそうな課題】

《活動》

- ・患者が治療を終えた後も、地域でイキイキと過ごせるよう、子どもから高齢者まで、障がいの有無にかかわらず、誰もが安心してつながり合える「誰でも“ゴザーレ”な地域共生社会」を目指している。
- ・その一環として楽しみながら地域課題解決につながるイベントを企画・開催している。

《課題》

- 子ども・障害を持つ人・お年寄りがイキイキと活動できる場所がない。
- 地域課題解決に取り組む人は、まちづくりに関心がある人しかいない。
- 地域住民を巻き込みながら、地域課題に向きあう企業が少ない。



【マネできそうな手順や事例】

「楽しそう」が人を呼び、新たな地域活動の担い手とのつながりの輪が生まれる

《手順》

- ① 2か月に1回、「楽しそう」なイベントを開催して、年齢や障がいの有無に関わらず多くの人を巻き込む。
- ② イベントが人と人をつなげる「マッチング」の場となる。
- ③ 人それぞれの「できること」がつながり、新たな「できること」が生まれる。

《マネポイント》

- ・ 多くの人が「参加したい！」と思う定期的なイベントの企画
- ・ イベントを「マッチング」の場として捉え、地域住民や地域課題を知るきっかけを提供している。

《事例》

4月 GOZAREの杜

病院脇の土地に植樹をし、杜をつくる取り組み。
GOZAREが目指す「つながりの場」づくりを体現したプロジェクト。



9月 GOZARE Arts

「芸術の秋」から着想を得た毎年恒例のイベント。
障がい者アートの展示をおこない、いろいろな人が地域にいることを知ってもらう。



【獲得できた効果】

《実施者から見た効果》

- 参加しやすいイベントなので、サポーターも参加者も増えている。
- 教育、アート、防災など、地域課題解決につながるテーマのイベントが次々生まれている。
- これら様々な領域、レイヤーで活動している個人、団体をつなぐヨコの連携が深まった。

《住民・市民から見た効果》

- イベントで同じ目標を持った人と出会うことができ、その仲間で新たな取り組みが始まっている。